

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

お客様概要

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
ITOCHU Techno-Solutions Corporation



会社概要

本社所在地：東京都千代田区霞が関
3-2-5 霞が関ビル

設立：1979年7月11日

資本金：217億6,300万円

従業員数：単独4,419名

CTCグループ9,085名
(2020年4月1日現在)

【導入製品・サービス】

Citrix Cloud



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
情報システム室 情報システム部
インフラシステム課 課長
浅沼 宏紀 氏



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
情報システム室
情報システム部
インフラシステム課
長井 健太 氏



Citrix Cloud×Windows Virtual Desktopで 従業員1万人が使うシンクライアント環境を一新

導入前の課題

- シンクライアント環境の基盤として活用してきたWindows Server 2008R2がサポート終了のタイミングを迎え、基盤の全面刷新が必要とされた
- シンクライアント環境の性能を上げながら、導入・運用コストを必要最低限に抑えたかった
- 新基盤として採用したWindows Virtual Desktopのエンタープライズレベルでの保守性・運用管理性を高める必要があった



導入後の効果

- Citrix CloudによってWindows Virtual Desktop環境の効率的な保守・運用管理が可能になった
- 画面転送効率に優れたシトリックスのHDXプロトコルによって、シンクライアントでの快適な仮想デスクトップ利用が実現された
- Citrix Cloudによるセキュリティポリシーの集中管理で、ポリシーベースでの細かなセキュリティ制御が容易になった

大手ITソリューションプロバイダーの伊藤忠テクノソリューションズ (CTC) は、Microsoft Azure上のVDIサービス「Windows Virtual Desktop (WVD)」とシトリックスのクラウドサービス「Citrix Cloud」との連携によって従業員約1万人が使うシンクライアント環境を一新、そのパフォーマンスと保守性・管理性を大幅に向上させています。

シンクライアント環境の 新たな基盤として WVD を選ぶ

CTCは、日本屈指のITソリューションプロバイダーです。オープン系の大規模基幹システムの構築で豊富な実績・経験を有し、データセンターを活用したアウトソーシングサービスを得意としています。そうした会社では、2004年からシンクライアントの社内利用に本格的に乗り出し、のちには、マイクロソフトのサーバOS「Windows Server 2008R2」のリモートデスクトップサービス (RDS) を使ったシンクライアント環境を構築、従業員約1万人に対してサー

ビスを提供してきました。

その中で、Windows Server 2008R2に対するマイクロソフトのサポートが2020年1月に終了することになり、シンクライアント環境の基盤を刷新する必要に迫られました。その新しい基盤としてCTCが選定したのが、Microsoft Azure上で提供されているマイクロソフトのVDIサービス「Windows Virtual Desktop」と、シトリックスのクラウドサービス「Citrix Cloud」とを連携させたソリューション (Citrix Cloud for Windows Virtual Desktop / 以下、Citrix Cloud for WVD) です。

WVDのエンタープライズ活用を実現すべく Citrix Cloud を選択

シンククライアント環境の基盤を刷新するに当たり、CTCは当初、WVDで利用できるクライアントOSの選択肢の中でWindows 10のシングルセッションの導入を検討しました。ただし、この方式によって従業員1万人が使うシンククライアント環境を構築しようとすると、コストが大きく膨れ上がり、「とても、現実的な解とは言えませんでした」と、CTC 情報システム部インフラシステム課 課長の浅沼 宏紀氏は振り返ります。

そこで同社は、Windows 10のマルチセッション——つまりは、複数ユーザーによるWindows 10の共用を可能にするWVDの活用を選択しました。この選択によって、通常のシングルセッション環境を使う場合と比べ、WVD環境の構築/ランニングコストを大幅に減らすことが可能になったといいます。ところが、WVDの環境だけで1万人が使うような大規模シンククライアント環境を運用管理していくのは難しく、WVDの保守性・運用管理性を高めるソリューションが必要とされました。そのソリューションとしてCTCが採用したのが、Citrix Cloudです。このサービスの働きにより、WVDのエンタープライズレベルでの使用を実現することが可能になり、結果として、通常のVDIを使う場合の約5分の1にコストを圧縮しながら、高いパフォーマンスを発揮するシンククライアント環境が構築できたと、浅沼氏は言います。

Citrix Cloud for WVDの選択がもたらしたメリット

Citrix Cloudは、WVDの管理プレーンとして機能するクラウドサービスです。同サービスを使うことで、例えば、ユーザー企業のデータセンターとMicrosoft Azureとを直接結ぶ閉域網[Azure Express Route]の使用がサポートされます。

「当社では、自社のデータセンターからMicrosoft Azure上に構築されたWVDへアクセスするためにAzure Express RouteでMicrosoft Azureと当社のデータセンターを結び必要がありましたが、それにはCitrix Cloudの活用が必要でした。その一点だけでも、Citrix Cloudを使う意味があったと言えます」(浅沼氏)。

また、Citrix Cloudを使用することで、シトリックス独自の画面転送プロトコル(HDX)が使えるようになります。「このプロトコルを使うと、Windows標準のプロトコル(RDP)を使う場合に比べて画面転送効率が圧倒的に良くなります。これもCitrix Cloudを使う利点の一つです」(浅沼氏)。

HDXを使うことで、画面転送によるネットワークリ

ソースの消費がRDPに比べて最大2割程度削減が期待されます。これにより、シンククライアントでの快適な仮想デスクトップ利用が担保されたほか、Azure Express Routeの通信コストが低く抑えられる可能性も広がっています。

加えて、Citrix Cloudでは、GUIコンソールやウィザードなどを使ったWVD環境の直感的な運用管理を実現するほか、数百台に及ぶサーバをシングルイメージでテンプレートとして管理することができます。こうしたCitrix Cloudの機能は、シンククライアント環境のメンテナンス性を上げるうえ大いに役に立つと、CTC 情報システム部インフラシステム課 長井 健太氏は指摘します。

「例えば、従来の環境では、システムの更新をかける際に、数百台のサーバに対して同じ更新をかける必要がありました。加えてシステムの更新頻度も高く、運用面の大きな負担になっていました。それがCitrix Cloudを使うと、OSテンプレート用のマシンを1台用意しておき、それに対して更新をかけるだけで更新内容が自動的に複数台のマシンに横展開されます。この仕組みのおかげで、システムを更新する手間が大きく減らせています」

また、Citrix Cloudには、「WEM(Windows Environment Management)」と呼ばれる機能もあり、これを使うことで無駄なCPUやメモリの消費を抑えてシステムを安定化させることも可能になります。「WEMを使いこなすのはこれからですが、とても優れた機能なので積極的に活用していく予定です」(浅沼氏)。

さらに、Citrix Cloudでは、セキュリティポリシーの集中管理を可能とし、ポリシーベースでの細かいセキュリティコントロールも可能にしています。

シンククライアント利用の勢いが増す

WVDとCitrix Cloudの採用を決めたCTCでは、両クラウドサービスの利点を活かしながらシステ

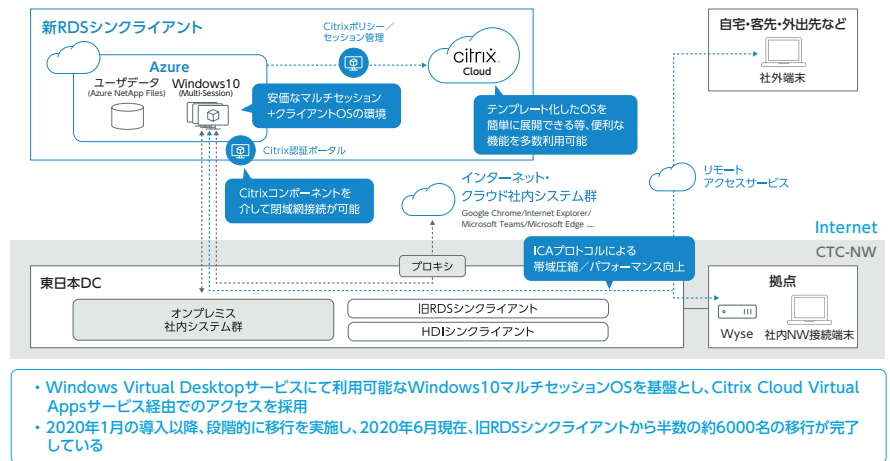
ム構築の作業を急ピッチで進め、わずか2カ月間で1万人が使用可能な新たなシンククライアント環境の構築を完了させ、2020年1月から運用をスタートさせました。

のちに発生した新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、CTCではほぼ全ての従業員の働き方を在宅勤務へと移行させましたが、その際も、Citrix CloudとWVDを使った新たなシンククライアント環境は従業員のテレワークをしっかりと支えたといえます。

「新しいシンククライアント環境に対する利用者の評価は上々のようで、従来環境に比べて性能が格段に上がったとの声もあるようです。つまり、新環境は、テレワークに必要とされるアプリケーションをストレスなく動作させているということですね」(浅沼氏)。

ちなみに、CTCでは、ZoomやTeamsを標準のリモート会議ツールとして採用し、社内ミーティングや講習会/セミナーなどに活用しています。このようなリモート会議ツールは、VDI環境下で快適に動かないことがよくありますが、Citrix Cloudでは最適化機能を提供し、シンククライアント環境に対する更新を一元的に確実に行うことが可能です。

長井氏によれば、このような新たな環境のパフォーマンスの良さもあり、シンククライアントを活用しようとする社内の機運は高まり続けているといいます。「当社の場合、約1万人分の従業員に向けてシンククライアント環境を用意していますが、それを使うかわからないかは任意です。ただし、リリース後WVD環境を積極的に使おうとする従業員が増えています。ですので、WVD環境の一層の拡張/強化を、Citrix Cloudの良さをフルに活かしながら図っていきたくて考えていますし、サーバ集約率の向上とHDXの動きで感覚的にネットワーク帯域もかなり削減されているようなので、Citrix Cloudによるコスト削減効果にも大きく期待しています」



citrix™

シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社
<https://www.citrix.com/ja-jp/>

©2020 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Citrix®, Citrixロゴおよびその他のマークは、Citrix Systems, Inc. および/またはその一つもしくは複数の子会社の商標であり、米国の特許商標庁および他の国において登録されている場合があります。その他の社名、商品名はそれぞれの所有者の登録商標または商標です。